

2006 年度事業実施報告書

2006年、「家族の会」は 27 年目にして名称を変更。また、日本認知症ケア学会の表彰を受けるなど、「家族の会」の歴史に刻むにふさわしい意義ある年であった。10 月には、「認知症の人本人会議」が開かれ、「本人会議アピール」を発表。また2007年 2月には「若年期認知症サミット」を開催するなど「認知症新時代」の幕開けとなった年でもあった。

しかし、一方では介護心中や殺人、いじめ、虐待、自殺が相次ぐ年でもあり 社会的な問題の多い年でもあった。「ぼけても安心して暮らせる社会」の実現にいっそう邁進しなくてはならない。

． 相談・支援

1.認知症の人も参加できるつどいの実施

(1) 「本人取り組みネットワーク」の取り組み

主催は「家族の会」東京研修センター「彩星の会」など関係者でつくった支援委員会(委員長松本一生「家族の会」理事)

10 月 16・17 日 「認知症の人 本人会議」を開催。

「本人会議アピール」が発表された。

(2) 支部における「本人参加のつどい」の実施状況

10 支部 119 回開催

(3) ブロック会議で取り組み状況の報告、意見交換

(4) 会報、ホームページなどでの広報

会報で、実例を報告し、本人の思いやその取り組みが紹介された。

ホームページや会報で「本人会議」などの本人に関する新しい情報が報告された。

2 支部活動に対する支援

(1) 電話相談の充実

支部電話相談助成

申込み総数 30 支部(内訳、新設 1 支部、経費助成 29 支部) 助成総額 1,803,500 円

本部フリーダイヤル相談実施状況

相談件数(4 月～3 月までの累計件数 3347 件)

電話相談研修会の開催 2回開催 41名が参加

(2) つどい

総会分散会で、つどいの持ち方、考え方等、各支部の実施状況について報告、検討。

若年期認知症のつどい、本人参加のつどいを実施する支部が増えてきている。

(3) 若年期認知症の子どもネットつどい(CYD ネット)

登録者数 11 名 投稿数 40 件 (06/12/31 現在)

参加対象者

若年期認知症(発病時が 65 歳未満) の人の子どもで、おおむね 40 歳までの人

「家族の会会員」または「親が家族の会会員」である人

広報 会報「ぼ～れば～れ」、家族の会」ホームページ

(4) ブロック会議の開催

全国統一テーマおよびブロックごとテーマの審議 情報交換・世話人の交流を目的として開催。

全国共通テーマ

「認知症新時代」の「家族の会」を語ろう ビジネス検討委員会の報告を資料として

本人と家族の心に届く支部活動を進めるには「支部ハンドブック」をテキストにして

ブロック会議開催結果

全ブロックで開催された。

啓発

1.世界アルツハイマーデーの取り組み

全国一斉活動には、厚生労働省や自治体からの参加も見られ、記念講演会は「認知症サポーター養成講座」として、参加者全員オレンジリングが手渡された。「キャラバンメイト養成研修」を開催した。

(1) ポスター、リーフレットの作成

ポスター1200部作成

リーフレット26万部作成

のぼり470本、たすき470本作成

(2) 全国一斉街頭活動

実施日 9月17日(日)午前11時より実施状況 全国86箇所 1200名が参加して実施。

(3) 記念講演会

全支部で記念講演会を開催することを目標。本部(京都・東京)開催、支部開催で全国各地で開催。全国の記念講演会参加者数 約8,000名で36名の新会員入会。

(4) 06年度標語

学ばず語らぬ認知症 家族で 社会で 支えよう

「ほけ」でも安心して暮らせる社会を

(大分県支部 江口正尚)

(5) 厚生労働省の後援と厚生労働大臣のメッセージ

2.認知症啓発資料の有効活用

(1) 啓発冊子

「家族が認知症ではないかと心配しているあなたへ 少し介護の先輩からのアドバイス」
「家族が作った認知症早期発見のめやす」

(2) パンフレットの改定版作成

入会案内(6月作成)

団体概要(1月作成)

3. 杉山 Dr の認知症の理解と援助 講演会の開催(新規)

全国各地で開催されている。主として専門職を対象に開催し、具体的でわかりやすいと好評。

13支部で開催 計1,718名が参加

4.若年期認知症サミットの開催

テーマ「本人と家族の困難と生きる道」

日時 07年2月12日 11:00~16:00

会場 広島県民文化センターホール

本人、家族の声を聞き、行政や企業のあり方をも考える画期的な催しとなった。集会参加者の意思は「アピール」として集約。「サミットの全容は「報告集」としてまとめられた。

5.「家族の会」啓発用パネルの作成

専門委員会

1.専門委員会と調査 研究委員会の取り組み

(1) 介護保険・社会保障専門委員会

「認知症の介護世帯における費用負担調査」より「家族の会」の見解を発表。

「追跡 介護保険の6年間 介護家族の立場からの検証」報告書を作成した。

各県の認知症対策について調査し、一覧表にまとめた。

2年後の介護保険制度見直しに、提言を行うために、アンケート案の審議を進めた。

本年度の取り組みとして次のアンケート調査を実施した。(1月実施)

介護保険4月改正についての実情調査

認知症の生命保険や住宅ローンに関する高度障害認定について

介護保険の要介護度に連動する障害者控除 特別障害者控除適用について

社会保障の情報提供

(2) 人権問題専門委員会

- (3) 広報・啓発専門委員会
- (4) 調査・研究専門委員会
各専門委員会の計画に応じ、調査・研究に関する部門について共同で作業を進めた。
05年度からの継続「追跡 介護保険の6年間 介護家族の立場からの検証」の報告書。
介護保険専門委員会が取り組む「介護保険改正へ向けての実態調査」企画会議参加。
若年期認知症委員会が取り組む「若年期認知症サミット」の企画などに参加。
- (5) 若年期認知症委員会
若年期認知症を親にもつ子どものネットつどいの実施
2006年度より本格実施へと準備を進め、9月21日よりオープン。
認知症サミットの開催
2007年2月12日に広島で開催。
若年期認知症の人とその家族を支援するための情報交換が出来るシステムの構築を考える。
- (6) 国際交流委員会
アジア太平洋地域会議
韓国ソウルで開催された会議に3委員が出席。プレゼンテーションの発表、会議出席。
ベルリンADI国際会議
「家族の会」としての国際会議発表も含め、日本から20演題ほどの発表が行われた。ADIの総会には3委員が出席、三宅顧問はオブザーバーとして参加。
ブースの展示では、越智さんなど本人の写真を展示、世界アルツハイマーデーのリーフレットの英訳版、「ぼ～れば～れ」の翻訳版を配布し好評を得た。
研修などの受け入れ
オーストラリア・メルボルン州のアルツハイマー病協会と日本との定期的研修について検討。
会報
国際交流委員会が「ぼ～れば～れ」誌上に「ケアでつながる地球家族」を連載。
- (7) ビジョン検討委員会
各委員がブロック会議の議論に参加し、ビジョンの理解、共有に努めた。各ブロック共に、熱心な意見交換が行われ、支部共有の目的はほぼ確認することが出来た。
- (8) 会報編集委員会
キャッチフレーズ「本人と家族と社会をつなぎ勇気をあたえるぼ～れば～れ」
編集委員会、編集会議
編集委員会は年2回開催、編集会議は毎月開催、メールリストを活用し意見交換。
紙面への工夫
重要な会の動向を会員にわかりやすく伝える努力。
「私のこころを受け止めて」のページで本人の思いを伝える努力を続けた。
「本人ページ」は文字だけでなく本人の日記や写真などを取り入れた。
社会情報の提供
介護実態を把握し、制度の情報と生活実態を基にした社会保障情報を提供した。
会報の英訳を海外のADIに提供。
会報とホームページの連携
会報とホームページの連携を密にしながら会報とインターネット両面より情報提供している。

組織・財政

1. 組織問題

- (1) 支部世話人の育成の強化
支部世話人の役割、活動の進め方などについて、「支部ハンドブック」が指針として活用された。
- (2) 個別支部への対応
06年度100名未満の支部は、5支部ある(07/3/31現在)。
- (3) 未組織県への対応
青森、栃木、福井、山口、香川、沖縄の内、沖縄、福井、香川に準備会。
香川県

香川県の社会福祉法人守里会より支部結成に協力したいとの申し出を受け、つどいを開きながら準備会を結成した。07年4月8日に支部結成をアピールする講演会を長谷川一夫先生、高見代表を講師に招き成功させ、07年度総会で正式に42番目の支部として承認される予定。

福井県

福井、敦賀、小浜、越前、など地域ごとに呼びかけ人を設置し、つどいを中心に会員を増やす体制が出来てきた。07年3月現在50名まで積み上げ、07年10月を目標に支部結成総会と長谷川和夫先生を講師に招き、支部結成の準備が進められている。

沖縄県

準備会は2003年6月に準備会が出来たが停滞を続けていた。07年度中に支部結成の目処をたてるべく準備会の解散も選択肢に入れ、不退転の決意で取り組むことになった。

(4) 支部事務所の設置

2. 財政問題

本部財政は厳しい状況。会員目標の達成も含め、寄付金募集も含めた幅広い対応への努力が必要。会員の拡大 目標の設定と意識した活動の展開

(1) 助成金団体の情報と活動

寄付金 助成金の獲得も大切であり 特に先を見据えた助成金等の獲得について今後のあり方を見直す必要がある。

(2) 「杉山 Dr の認知症の理解と援助」による支部支援。

杉山副代表による同研修講座の収益は支部に大きな財政上の貢献。

機関紙の発行

本年度は、名称変更、本人会議、認知症サミットなどの「家族の会」にとって歴史的な大きな動きのある年であった。

(1) 『ぼけても心は生きている』ことを理解してもらうために、その編集に努力した。

(2) 支部の活動や介護体験を知らせる貴重な記事であり 支部報との連携としての大切なページである。

全国研究集会

第22回全国研究集会

11月12日、山梨県甲府市の県民文化ホールで開催された。参加者は約700名。テーマは「認知症の早期発見 その必要性和支援のあり方 ぼけても安心できる地域社会のために」早期発見をテーマに開催。

基調講演は、朝田隆氏(筑波大学臨床医学系精神医学教授)、事例発表は、5事例の報告が行われた。また、全体討論は、コメンテーターに杉山孝博氏(家族の会副代表 医師 川崎幸クエック院長)、コーディネーター水戸美津子氏(自治医科大学看護学部長 専門分野:老年看護学)による進行で、報告者全員による意見交換が行われた。

今回は、男性介護者の体験報告、学生からの報告など新しい報告で内容の濃い研究集会となった。またあした葉劇団の介護劇は、認知症ではないかとの家族の気づきを示唆するものであった。

調査・研究

介護保険施行前後から実態調査。介護保険費用調査含め、時系列的にまとめ、報告書作成。

日本興亜福祉財団助成交流・研修

(財) 日本興亜福祉財団の助成(委託事業)を受けて、支部主催でリフレッシュ旅行を下記のとおり実施した。

2006年度リフレッシュ旅行実施状況

実施支部 25支部 参加者 833名